

2018年6月8日

各 位

三井住友ファイナンス&リース株式会社
サステナジー株式会社
富国生命保険相互会社

太陽光発電事業向けプロジェクトファイナンスの取り組みについて

三井住友ファイナンス&リース株式会社（代表取締役社長：橋 正喜、以下「SMFL」）および富国生命保険相互会社（代表取締役社長：米山 好映、以下「富国生命」）は、サステナジー株式会社（代表取締役社長：三木 浩、以下「サステナジー」）の太陽光発電事業にリースを活用したプロジェクトファイナンスを行います。

総事業費は約 50 億円、発電容量は 15.6MW、年間の想定発電量は約 1,450 万 kWh、発電事業の稼働は 2020 年 3 月を予定しています。

発電事業はサステナジーが出資する特別目的会社（以下「SPC」）が行い、SMFLはSPC向けに太陽光発電モジュール・架台などの発電設備一式をリースします。SMFLはSPC向けのリース料債権の一部をSMFL信託株式会社に譲渡し、富国生命は譲渡されたリース料債権を裏付けとしてSPC向けに融資を行います。また、SMFLはプロジェクトファイナンスのスキーム全体のアレンジメントを行います。

発電所の事業用地は岩手県宮古市箱石に所在の未利用地であり、かねてより地元地権者には有効活用の要望がありました。この要望を受けて、地域でのエネルギー事業の共同プロジェクトを進めているサステナジーが太陽光発電の事業化を行います。発電所が稼働すると一般家庭約 3,000 世帯分※1 の年間使用電力量に相当し、化石燃料の代替により約 7,800t/年※2 のCO2 排出量削減効果が見込まれます。

SMFLは今後も、地球温暖化防止・低炭素社会実現へ向けて太陽光発電を始め、バイオマス発電・小水力発電・地熱発電などの再生可能エネルギーの普及及び地域創生に資する案件を積極的に支援してまいります。

サステナジーは、2009 年より東北地方を中心に中小規模の再生可能エネルギー事業に取り組み、2017 年には宮城県で農地の有効活用やソーラーシェアリング事業を開始しました。今後も耕作放棄地の有効活用、地元雇用の創出など地域に貢献できるエネルギー事業を通じて、社会の変革に取り組んでいきます。

富国生命は、「社会への貢献」を経営理念のひとつに掲げており、企業の社会的責任（CSR）を果たすため、生命保険事業の高い公共性を踏まえ、本業である生命保険事業の健全な運営に努めると同時に、よりよい社会づくりを目指してさまざまな社会貢献活動に取り組んでおります。

※1 1世帯あたりの電力使用量を4,789kWh/年として計算

※2 1年あたりのCO2削減効果を541.5g/kWhとして計算

以上

<お問い合わせ先>

三井住友ファイナンス&リース	広報IR推進室	五十嵐	TEL 03-5219-6334
サステナジー	岩手営業所	圓谷	TEL 019-601-6605
富国生命	広報室	大久保 / 小林	TEL 03-3593-7456